

デンマークにおける文芸振興政策

吉田 右子

Art and literature promotion policy in Denmark, by YOSHIDA Yuko.

本稿ではデンマークにおける文芸振興政策を、文芸創作の支援の1つである公共貸与権制度とデンマーク芸術基金による政策に焦点を当てて整理した。最初に文芸振興政策に関わる出版、読書、公共図書館の現状について概観した。次に公共貸与権制度について概要、内容、実態をみていきその仕組みの一端を示した。さらにデンマーク芸術基金に焦点を当てながら、文芸振興政策の概要、実態を示した。これらの制度・政策はデンマークにおいて、著作物や作品への平等なアクセスを保障するための基盤となっていることを結論とした。

1 はじめに

格差のない社会の実現を最重要視するデンマークにおいて、公共図書館は一貫して文化へのアクセス保障と教育のための機会均等を掲げてきた。1964年に改正された「公共図書館法(Lov om folkebiblioteker)」第1条では、図書館の目的を「公共図書館の目的は、図書やその他の適切な資料を無料で入手できるようにすることにより、知識、教育、文化を浸透させることにある」と定めた¹⁾。この法律は公共図書館が図書以外の資料を提供すること、図書・資料提供を通じて、文化・教育活動を進展させていくことを明示したことで、それまでの資料提供サービスを中心とした図書館の目的をより広い射程で表現したものとなった。

20世紀後半からは公共図書館は資料中心の伝統的なサービスを基盤に、マイノリティグループの文化的包摂のためのサービス、情報リテラシーとITスキル修得のための学習プログラムを集中的に提供することで、社会的・文化的格差を埋める教育文化施設としての位置付けを確立した。資料と情報へのアクセスおよび多様な文化へのアクセス、他者との出会いや議論の場の提供は、21世紀初頭の公共図書館の役割の中核となった。しかしながら依然として来

館者の図書館利用の中心は資料の借り出しにあり、図書館は読書材の提供の場として認識されている²⁾。

こうした活発な図書館活動の背景には、図書館サービスの核となる著作物や作品等の資料を安定的に供給するための政策が関わっているのではないかと考えたことが、本研究に取り組むきっかけとなった。本稿では図書館で資料として受け入れられている図書、音楽・音声資料、美術作品等を対象とした文化振興政策を、文芸振興政策と呼称する。

本稿は著作者・創作者の支援のための公共貸与権制度及びデンマーク芸術基金(Statens Kunstfond)における文芸振興政策の現状を示すことを目的としている。本研究の結果を踏まえて、デンマークの文芸振興政策における公共図書館の位置付けを明らかにすることが最終目的である。

デンマークの文学に対する政府の支援体制については石田香による先行研究がある³⁾。石田の研究はデンマークの文学に対する支援の全体像を明らかにするために、デンマーク文化政策の歴史、芸術・文化に対する公的支援の現状、1990年代から2000年代初頭にかけての文化政策を明らかにし、その中で公共貸与権制度(3章を参照)に言及している⁴⁾。しかしながら石田の研究を除いて、国内・海外において、デンマークの文芸振興政策と公共貸与権を研究対象として扱う研究は見られない。本稿では石田の先行研究を踏まえ、21世紀初頭におけるデンマーク文芸振興政策を整理する。

2023年1月17日受理

よしだ ゆうこ 筑波大学図書館情報メディア系

以下の構成で議論を進める。2章ではデンマークの出版・読書状況、公共図書館の現状及び読書振興政策を概観する。3章ではデンマークの公共貸与権の制度と現状を詳細にみていく。4章ではデンマーク芸術基金における文芸振興政策をみていく。5章ではデンマークの文芸振興政策について公共図書館を視野に入れて総括する。

2 デンマークの出版・読書及び公共図書館の状況

文芸振興政策を論じる前に、本章では著作物・作品の生産、流通、消費に関わりが深いデンマークの出版、読書、公共図書館の状況について概観する。

2.1 デンマークの出版・読書状況

本節ではデンマークの出版・読書状況について紹介する。

図書委員会(Bogpanelet)⁵⁾が図書の製作、流通、読書習慣などに関する動向をまとめた年次報告書『図書と文学の状況 2021 (Bogen og Litteraturens Vilkår 2021)』によると、2020年に印刷図書として出版されたのはフィクションが3,242点、ノンフィクション・主題図書が3,061点であった⁶⁾。2020年に電子書籍として出版されたのはフィクションが2,889点、ノンフィクション・主題図書が1,828点であった⁷⁾。オンライン・オーディオブックの刊行点数が急激に伸びており、2020年には4,513点が製作されている⁸⁾。

2020年の売り上げは印刷図書の売上が約13億700万デンマーク・クローネ⁹⁾(約258億7,860万円)で前年比1.1%の伸びに対して、電子書籍の売上は、約4億6,800万デンマーク・クローネ(約92億6,640

万円)で前年比20.6%の伸びであった。印刷図書の売上は多い順に主題図書、児童青少年向け図書、ノンフィクション、フィクションである。電子書籍の売上は多い順に教材、フィクション、ノンフィクション・主題図書、児童青少年向け図書である¹⁰⁾。

販売ルート別総売上高は、図書館を含む教育機関のシェアが最も高く約35%を占め、次に実店舗の書店での売上が約25%強、オンライン書店での売上約20%強、残りがブッククラブやスーパーマーケット等での売上である¹¹⁾。COVID-19によるロックダウンによって電子書籍購入が確実に伸びている¹²⁾。表1は書籍の主たる入手先を示している。実店舗からの購入が最も高くなっている一方で、サブスクリプション・サービスの増加率が顕著である¹³⁾。

シンクタンク未来の図書館(Tænketanken Fremtidens Biblioteker)はデンマーク図書館協会(Danmarks Biblioteksforening)の委託により、2019年に『子どもと若者にとっての読書文化の強化：国家読書戦略のための提言(En Stærk Læsekulturur Hos Børn Og Unge: Oplæg Til En National Læsestrategi)』をまとめた。同報告書では、子どもの読書力の低下傾向や成人も含めた読書時間の減少を示し、全国的な読書戦略の必要性が指摘された¹⁶⁾。具体的には公共図書館が学校やクラブ、デイケアセンターを訪問して児童・青少年向けの文学を普及させることやデンマークにおける電子書籍へのアクセスのためのポータルサイト eReolen を通じた電子書籍への容易なアクセスの実現¹⁷⁾、公共図書館が児童・青少年文学に関する自治体の知識・技能センターとして、学校における文学の普及にとって中心的役割を果たすべきこと、知識・技能センターの任務を専門的・体系的に処理するための資源を図書館

表1 書籍の主たる入手先¹⁴⁾

入手先	2019年	2020年	2021年
書店(実店舗)	19.5%	19.1%	15.9%
贈答	13.8%	11.8%	14.0%
サブスクリプションサービス	2.7%	6.9%	10.5%
図書館(印刷図書)	13.4%	13.2%	9.4%
デンマーク国内のオンライン書店	9.3%	7.2%	9.1%
図書館(電子書籍)	3.3%	3.6%	3.3%

出典：『図書と文学の状況 2021』p.24 図3.14¹⁵⁾より筆者作成

に移管すること等¹⁸⁾が勧告された。

2.2 デンマーク公共図書館の概況

2021年統計によるとデンマークには中央館と分館を合わせて404館の公共図書館があり、来館者数17,753,000人、ウェブサイト訪問者が22,506,000人であった。貸出数17,446,231点であった¹⁹⁾。2018年までは減少傾向にあった総資料費は2018年から2020年までは増加しているが、印刷図書の購入費は2019年から減少傾向にある²⁰⁾。その後ロックダウンの影響により、印刷図書の貸出数が大幅に減少する一方で、電子書籍の貸出が大幅に増加した²¹⁾。

印刷図書の点数や貸出数は減少傾向にある一方で、提供されるプログラムの数は増加傾向にある。COVID-19の影響を受ける前の3年間を対象にすると、イベント開催件数は2017年が22,215回、2018年が24,316回、2019年25,646回と増加した²²⁾。

日本のように公民館が存在せず、公共図書館が住民の生涯学習のための主たる拠点であるデンマークでは、1964年の公共図書館法の改正を機に、資料の提供を主たる任務としつつ、多様な教育活動や文化的なプログラムを展開する施設へと方向性を変化させていった²³⁾。公共図書館で実施されるプログラムの歴史の変遷を分析したマティーアソン(Mia Høj Mathiasson)はプログラムを(1)文学の普及と図書の貸出を増やす手段としてのプログラム(1960-1968)、(2)図書提供にとどまらない図書館をPRする手段としてのプログラム(1969-1976)、(3)コミュニティ構築のための包括的手段としてのプログラム(1977-1982)、(4)出会いの場として図書館の在り方を特徴付けるプログラム(1983-1994)、(5)コミュニティ構築としてのプログラム(1995-2008)、(6)プログラム実施それ自体が目的となるプログラム(2009-2020)の6期に分けた²⁴⁾。

とりわけ21世紀に入ってから、公共図書館は公共的な議論の場や市民サービスのための場として新しい役割を担うようになり、COVID-19パンデミックの最中にもオンライン・レファレンス、オンライン読書会の開催、作家のオンライン講演会、屋外での文学散歩など多様なプログラムを展開してきた。こうした文化活動の増加は公共図書館の資料提供機能が後退したことを示しているのではなく、2021年においても資料の貸借は利用者の公共図書館訪問の最大の動機となっている²⁵⁾。

2.3 公共図書館と読書振興

公共図書館における読書振興は、貸出に関するPR活動、資料展示などの通常業務と作家による講演会、ワークショップ等の読書振興プログラムによって実施されてきた。また図書館の中に設けられる読書サークルは、読書振興のための中核的組織として位置付けられる。デンマークの公共図書館には創作活動、プログラミング、メーカースペース、編み物等のサークルがある。サークルは利用者の関心に基づいて結成されており、図書館主導で組織化されるグループと利用者主導で組織化されるグループがある。これらのサークルの中で読書サークルの数は最も多く、2019年時点で3,087の図書館内読書サークルが存在し、そのうち半分以上は利用者主導で設立されている²⁶⁾。さらに各図書館で実施される読書振興活動以外に、国が主導する読書振興政策がある。2000年代以降の主要な読書振興プロジェクトを表2にまとめる。

新型コロナウイルス感染症による社会的危機を迎えた2020年以降も、保育園、学童保育所等における書籍購入プロジェクト「子どもと文学との出会い(BOGglad)」²⁸⁾や民主主義、デジタル教育、文学、SDGsの普及に焦点を当てたプロジェクト²⁹⁾が公共図書館からの事業提案方式³⁰⁾で順次進められた。

2021年からは移民・難民集住地区等の社会的脆弱地域において、地元根ざした芸術や文化活動を通じて住民の能動的な社会参加を支援する3年間の特別プロジェクト「社会的脆弱地域における芸術と文化2021」³¹⁾を宮殿・文化局(Slots- og Kulturstyrelsen)³²⁾が開始し、図書館界は「社会的に脆弱な住民のための健康向上に向けた読書コミュニティ(Sunde Læsefællesskaber for Udsatte Borgere: SLUB)」プロジェクト³³⁾に着手している。

3 デンマークにおける公共貸与権制度

本章ではデンマークにおいて公共図書館が関与する最も特徴的な文芸振興政策である公共貸与権制度について、制度と実態を検討する。

3.1 北欧諸国における言語保護政策

北欧諸言語は全て少数話者言語であり、それらを守っていくためには積極的な言語保護政策が必要である。北欧諸言語で書かれた図書の出版と流通は言語保護政策の要であり、各国には出版・流通に関わ

表2 2000年代以降の主要な読書振興プロジェクト

年	プロジェクト名：概要
2003-2008	読書愛好者：文化省，教育省，家族・消費者問題省による連携プロジェクト。子どもと若者の読書意欲の向上と読解力の強化
2008-2010	読書意欲の向上：「読書愛好者」プロジェクトの継続プログラム
2008-2016	ブックスタート：読書に援助が必要とされる住民がいる地域の家庭を専門家が訪問し，図書館が準備したブックパッケージを配付
2015	デンマークの読書家：自治体ごとに読書振興アイデアを競うプロジェクト
2019	放課後の児童施設における読書意欲の向上と読書コミュニティの構築：文化省による児童施設との連携による放課後の読書活性化プロジェクト
2019	読書意欲プロジェクト：教育省による子どもの読書意欲向上に携わる専門職，学校関係者，保護者に焦点を当てたプロジェクト

出典：『プロジェクト「読書の楽しみ」の位置付け 2014-2019』²⁷⁾より筆者作成

る特徴的な政策がある。

例えばフィンランドにはフィンランド語で執筆する著作者を保護するための政策がある³⁴⁾。ノルウェーでは国が出版社からノルウェー語の文芸新刊作品を買い上げて全国の公共図書館に送付する仕組み「文芸作品調達制度」を半世紀以上維持してきた³⁵⁾。デンマークではデンマーク語で著作を発表する作家の支援するための公共貸与権制度，芸術評議会や芸術基金による作家への助成，デンマーク文学センターの活動などを通じて，少数話者言語保護に関する文化政策を実施してきた³⁶⁾。

3.2 図書館料金制度

公共図書館における資料提供は，著作者・創作者によって創作された著作物・作品が刊行され図書館に受け入れられるというプロセスを前提として成立する。つまり著作物・作品は資料提供の場としての公共図書館の存続を支え，同時に図書館は著作物・作品を購入することで著作者・創作者を支えている。デンマークではさらに公共図書館で貸出される著作物・作品に対して，金銭を支払うことで，著作者・創作者の創作活動を間接的に支援してきた。「図書館の貸出しに着目して何らかの金銭を作家に支給す

る制度」は「公共貸与権(Public Lending Right)」と呼ばれ³⁷⁾，2022年8月現在，32ヶ国及び2つの自治領が公共貸与権制度を導入している³⁸⁾。

デンマークは公共貸与権制度を世界に先駆けて1946年に導入している³⁹⁾。公共貸与権制度により支給される金銭のことをデンマークでは「図書館料金(biblioteksafgift / bibliotekspenge)」と呼称しており，以下，デンマークの公共貸与権制度を図書館料金制度と呼ぶことにする。デンマークで公共貸与権制度が導入された理由として，デンマーク語が少数話者言語であることが挙げられる。公共貸与権はデンマーク語で文芸作品を発表する作家の支援を念頭に置いた制度であり，図書館での貸出によるデンマーク語による創作者の損失を補填することで，少数話者言語であるデンマーク語の衰退を食い止めるための仕組みとして捉えることができる⁴⁰⁾。

2018年にはカナダに次いで世界で2番目に図書館料金の対象範囲を電子書籍に拡大した⁴¹⁾。図書館料金のための予算は毎年定められる(日本の予算に当たる)「財務法(Finansloven)」の中で文化省予算として定められており⁴²⁾，分配手続きは1991年6月6日に制定された「図書館料金法(Lov om biblioteksafgift)」に基づき⁴³⁾，2017年11月30日に制定

された「図書館料金に関する(文化)省令(Bekendtgørelse om biblioteksafgift)」で規定されている⁴⁴⁾。図書館料金の支払いカテゴリーには、(1)図書、(2)音楽・音声資料、(3)絵画・写真等の美術作品がある。以下、「図書館料金に関する(文化)省令」及び図書館料金を運営管理している宮殿・文化庁のウェブサイト参照しながら、各カテゴリーの制度概要をみていく。

(1) 図書資料⁴⁵⁾

図書館料金の対象となるのは、公共図書館、国民学校教育学習センター(folkeskolens pædagogiske læringscentres)⁴⁶⁾および視覚障害者やディスレクシアのために資料を提供する国立図書館 Nota の所蔵資料である。図書館料金委員会(Biblioteksafgiftsnævnet)は文化大臣によって任命される法務専門家、図書館専門家、デンマーク作家協会(Dansk Forfatterforening)とデンマーク・フィクション作家協会(Danske Skønlitterære Forfattere)から推薦を受けた2名を含む8名から構成され、図書館料金の分配に関して異議申し立てがあった場合、最終的な決定を下す権限を持つ⁴⁷⁾。

図書館料金の受給対象者は(1)デンマーク語の印

刷図書、電子書籍、録音図書、オンライン録音図書の著作者、(2)外国の印刷図書、電子書籍、録音図書、オンライン録音図書のデンマーク語への翻訳者、(3)印刷図書、電子書籍、録音図書、オンライン録音図書に作品が掲載されているイラストレーター、画家、写真家、作曲家、(4)外国語からデンマーク語に翻訳、翻案された図書に作品が掲載されていることを届け出たイラストレーター、(5)デンマーク語及びデンマーク語に翻訳された作品への主要な貢献を届け出た寄稿者、となっている。なお遺族の受給には2003年以前に著作者本人が制度に加入することが条件となっている。

図書館料金を著作者に支払う目的はデンマーク語及びデンマーク文化の支援・振興にあり、内容の半分以上がデンマーク語以外の作品、内容の半分以上がデンマーク語以外の言語から翻訳されている作品は図書館料金の対象とはならない。また新聞・雑誌・年鑑への寄稿、辞典類への執筆等図書への少量の寄稿も、図書館料金の対象とはならない(受給対象となるのは、総ページ数の5%以上あるいは50ページ以上執筆した場合に限られている)。なお図書館料金を受け取るためには、著作者として登録をする必要がある。図書に関する図書館料金は、公共

表3 図書資料の種類とポイント数

種類	ポイント数
印刷図書・電子書籍	
印刷図書・電子書籍(成人向けフィクション以外)	1ページあたり1ポイント
印刷図書・電子書籍(詩を除く成人向けフィクション)	1ページあたり1.7ポイント
絵本や漫画	1ページあたり3ポイント
楽譜	1ページあたり6ポイント
詩集	1ページあたり6ポイント
翻訳書・デンマーク語と外国語の辞書	1ページあたり1/3ポイント
録音図書	
録音図書やオンライン録音図書	1分につき1/2ポイント
録音図書やオンライン録音図書(フィクション)	1分につき0.85ポイント
絵本や漫画	1分につき1.5ポイント
楽譜	1分につき3ポイント
詩集	1分につき3ポイント
翻訳書・デンマーク語と外国語の辞書	1分につき1/6ポイント

出典：宮殿・文化局「図書館料金の換算」⁴⁸⁾より筆者作成

図書館、国民学校教育学習センター、Nota における資料の資料数を基礎にしたポイント制に従って配分額が算出されている。図書の場合は1ページあたりのポイント、録音図書の場合は1分あたりのポイントが定められる。算出基準は、表3のように定められている。

印刷図書と録音図書については図書館の所蔵数が貸出単位数として図書館料金の計算に使用されるのに対し、電子書籍については物理的実態がないためダウンロードの回数(利用数)に応じて表4のようなポイントが定められた上で、ページ数、資料種別、資料を貸与した自治体に与えられるポイントが加味され、合計のポイントが算出されている⁴⁹⁾。

宮殿・文化庁は図書館料金の割り当てられた予算額に応じて、ポイントをもとに著作者に支払う図書館料金を算出する。

(2) 音楽・音声資料

音楽・音声資料の図書館料金の対象は、デンマーク国内で発行され図書館で貸出されるレコード、CD、オーディオテープ、その他の音声媒体であり、公共図書館、国民学校教育学習センター、Nota における資料点数を基礎にしたポイント制に従って配分額が算出される⁵¹⁾。図書館料金受給の対象となるのは、図書館で貸出されている音楽・音声の創作者(作曲家、作詞家)、実演家(演奏家、ソリスト、指揮者、音楽グループ、合唱団、オーケストラ)、録音図書朗読者である⁵²⁾。各音楽カテゴリーに合わせて配分を決定する委員会(Brancheorienteret for-

delingsudvalg) が、規定に基づき配分を決定する役割を担う。同委員会の委員は、文化大臣、宮殿・文化庁、デンマーク作曲家協会(Dansk Komponist Forening)、デンマーク・ジャズ・ビート・民俗音楽作家協会(Danske Jazz-, Beat- og Folkemusikautorer)、デンマーク・ポピュラー作家協会(Danske Populær Autorer)、デンマーク・ソリスト協会(Dansk Solistforbund)、デンマーク俳優協会(Dansk Skuespillerforbund) が推薦する委員から構成される⁵³⁾。配分額は表5に示した創作及び出演のカテゴリや創作物への貢献度(出演比率)により決定される⁵⁴⁾。なお遺族は受給対象となっていない。

(3) 美術作品

図書館料金の対象は、デンマーク国内で公表され図書館で貸出対象となっている絵画・写真等の美術作品である。美術作品に関する図書館料金の受給者は、画家や写真家等の芸術家である。配分額は公共図書館と国民学校教育学習センターにおいて貸出対象となる作品所蔵数に基づき算出されている⁵⁶⁾。なお遺族は受給対象となっていない。

3.3 図書館料金の実態

宮殿・文化局が発表している年ごとの図書館料金の現状についてみていく⁵⁷⁾。2022年に支払われる図書館料金は約1億8,550万デンマーク・クローネ(約36億7,290万円)となった。その内訳は印刷図書が約1億6,283万デンマーク・クローネ(約32億2,403万円)、電子書籍(e-bog) が約1,044万デンマーク・

表4 電子書籍の利用回数とポイント数

利用回数	ポイント数
0 - 25	0ポイント
26 - 75	50ポイント
76 - 150	100ポイント
150 - 400	150ポイント
401 - 1,000	200ポイント
1,001 - 2,000	250ポイント
2,001 - 5,000	500ポイント
5,001 - 10,000	750ポイント
10,000以上	1000ポイント

出典：宮殿・文化局「図書館料金の換算」⁵⁰⁾より筆者作成

表5 音楽・音声資料のポイント数

創作者カテゴリー	ポイント数
作曲家	10ポイント
編曲者	2ポイント
作家	10ポイント
翻訳者	4ポイント
共同著作者	10ポイント
実演家カテゴリー	ポイント数
ミュージシャン・歌手・俳優	4ポイント
オペラ・ミュージカル等のソリスト	8ポイント
指揮者	8ポイント
朗読者	6ポイント
共同実演家	10ポイント

出典：宮殿・文化局「レコード等のポイント配分基準(2017年度以降)」⁵⁵⁾より筆者作成

クローネ(2億678万円)、オンライン録音図書が約903万デンマーク・クローネ(約1億7,887万円)、録音図書が約319万デンマーク・クローネ(約6,319万円)である。2022年の受取総数は10,338人で、平均受取額は17,943デンマーククローネ(約35万5,000円)であった。受給金額の上位5名はいずれも児童文学者である⁵⁸⁾。

補償金支払額は以下のように調整されている。

- (1) 1,370デンマーク・クローネ未満の金額は支払い対象から除外される
- (2) 50万9,345デンマーク・クローネまでの金額は全額が支払われる
- (3) 50万9,345デンマーク・クローネから67万9125デンマーク・クローネの補償金は補償金支払額の50%が減額される
- (4) 67万9,125デンマーククローネ以上の金額は支払額の3分の1が減額される
- (5) 減額によって出る余剰金は受取額が少ない対象者に再分配される

これらの限度額は毎年調整され、受取額が少ない著作者に有利な配分となっている⁵⁹⁾。

音楽資料関係の図書館料金の状況であるが、2022年は総額633万6,948デンマーク・クローネ(約1億2,547万円)の図書館料金が支払われた⁶⁰⁾。受給金額第1位はジャズ・クラシック分野で活躍するピアニスト、作詞・作曲家である。第2位は俳優でテ

レビ番組の司会者、第3位はポップミュージシャン、第4位は作曲家、歌手、バイオリニスト、ギタリスト、ポップ・ロックミュージシャン、音楽プロデューサーであった⁶¹⁾。美術作品に関して2022年には美術家に総額19万2,028デンマーク・クローネ(約380万円)の補償金が支払われた⁶²⁾。

3.4 著作者から見た図書館料金制度

著作者は図書館料金制度をどのように認識しているのであろうか。『デンマークにおける作家と翻訳者の生活実態(*Danske Forfattere og Oversætteres Økonomiske Levevilkår*)』⁶³⁾によれば、作者と翻訳者の収入は主として給与収入、図書館料金、事業収入から構成されている⁶⁴⁾。給与収入を得ていたのは著者と翻訳者の58%で、平均賃金収入は約31万6,000デンマーク・クローネ(約625万7千円)であった⁶⁵⁾。図書館料金については、受け取り平均額が約3万7,000デンマーク・クローネ(約73万3千円)であった。最も多く受け取っているのは児童文学作家であり、次いでフィクションの翻訳者が続いている⁶⁶⁾。

一般的にキャリアが長いほど著作物が多くなるため、図書館料金の受給額は増えていく⁶⁷⁾、文学界へのデビューからの年数が短い場合、図書館料金の収入に頼ることは困難である。そうした著作者にとって、デンマーク芸術基金による作家への助成金が重要な経済的支柱となる。助成金には1年タイプ

と3年タイプがあり、作家としての職を確立するために重要な役割を果たしている。詩人・作家・翻訳者のピア・ユール(Pia Juul)はキャリアの早い時期で3年間の助成金を受給できたことで執筆に集中できたと述べ、助成金がなかったら現在のポジションは築けなかったと振り返っている⁶⁸⁾。

『デンマークにおける作家と翻訳者の生活実態』からは、著作者が教育機関からの給与、大学の講義、語学教師、文化イベント、出版コンサルタントなど複数の収入源から収入を得て生活を成り立たせていることが浮かび上がる。その中でもデンマーク芸術基金の文学者を対象とした助成金が重要な役割を果たしている。図書館料金は収入源の一つに過ぎないが、著作者としての仕事に専念する時間が長いほど、多くの図書館料金を受け取るという結果が示されている⁶⁹⁾。

4 デンマーク芸術基金における文芸振興政策

本章ではデンマークの文化政策の中核的組織であるデンマーク芸術基金の歴史と活動の実態を明らか

にした上で、同基金の文芸振興政策についてみていく。

4.1 デンマーク芸術基金

デンマークで文化政策を主導しているのはデンマーク芸術基金である。同基金が設立された1956年から今日の文化政策制度が形成されるまでの歴史を、表6にまとめた。

デンマーク芸術基金の活動は「デンマーク芸術基金活動法(Lov om Statens Kunstfonds virksomhed)」によって定められている。同法ではデンマーク芸術基金の目的をデンマーク芸術の促進と定められた上で、デンマーク全土に芸術を浸透させることと、子どもと若者への芸術の普及を目指すことと定められている⁷¹⁾。

デンマーク芸術基金は、委員会、理事会、代議員会からなり、委員会は建築、視覚芸術、映画、工芸・デザイン、文学、音楽、舞台芸術の芸術分野をカバーする12の委員会と分野横断的な4つの委員会から構成される。代表者委員会は芸術全般をカバーする54

表6 デンマーク芸術基金概史

年	事項
1956	デンマーク芸術基金設立
1964	デンマーク芸術基金再編・文学委員会による助成金制度開始 公共貸与権制度開始
1986	文化省による児童文学助成金制度開始
1988	文化省による雑誌刊行助成金制度開始
1990	文化財団(Kulturfonden)設立 デンマーク文学情報センター(Dansk Litteraturinformationscenter, 後にデンマーク文学センター(Dansk Litteraturcenter: DLC と改称)設立
1991	イラスト、漫画家、翻訳者、フィクション作家、劇作家、作詞家を対象とした助成金制度開始
1996	文学評議会(Litteraturrådet)設立、助成金を管轄
1998	文化省開発財団(Kulturministeriets Udviklingsfond: KUF)設立 文化財団廃止
2002	文化省開発財団廃止
2003	デンマーク芸術評議会(Statens Kunstråd)設立 文学評議会廃止 デンマーク文学センター廃止
2014	デンマーク芸術評議会とデンマーク芸術基金が統合しデンマーク芸術基金(Statens Kunstfond)に再編成 デンマーク芸術評議会廃止

出典：『デンマーク文学におけるデンマーク芸術基金の意義』⁷⁰⁾より筆者作成

名から構成される⁷²⁾。デンマーク芸術基金の主たる任務は創作者、文化機関、自治体、企業からの申請に基づき、年間6,000件以上のプロジェクトに対し助成金を提供すること、創作者に対し終身助成金(livsvarige hædersydelse)を授与することである⁷³⁾。デンマーク芸術基金の運営費は、文化省の下部組織で文化行政を執行する宮殿・文化庁の運営交付金に含まれており、2022年の予算内訳は表7の通りである⁷⁴⁾。

これらの予算の他に、終身助成金3,390万デンマーク・クローネ(約6億7122万円)が2022年財務法で確保されていた⁷⁶⁾。

4.2 文芸振興政策

本節ではデンマーク芸術基金の活動領域の中で、特に公共図書館と関連が深い文芸振興政策に焦点を絞って見ていく。デンマークにおける文芸振興政策を定めた法律は「文学法(Lov om litteratur)」であり、文芸振興、文芸作品へのアクセスの促進、デ

ンマーク文学の海外普及が目的として定められている⁷⁷⁾。文学振興政策を実質的に統括するのは、デンマーク芸術基金の文学助成委員会(Legatudvalget for Litteratur)と文学プロジェクト支援委員会(Projektstøtteudvalget for Litteratur)である⁷⁸⁾。

文学助成委員会では、作家、翻訳者、漫画家、イラストレーター等、文芸作品の創作者に対し、毎年約350件の助成を行っている。委員会のメンバーは作家2名、漫画家・イラストレーター1名、研究者1名、翻訳者1名から構成されている⁷⁹⁾。文学助成委員会が提出した「2021年から2023年までの運営戦略」では、文学界において質の高い作品が増えることが民主主義社会の構築につながることで、助成金の目的は著作者が作品制作のための時間を生み出すためにあること、若者と子どものための文学作品出版に注力すること、すべての文学ジャンルを平等に扱うことなどが盛り込まれた⁸⁰⁾。文学プロジェクト支援委員会では、デンマーク文学の普及のために実施される文学祭、作品制作、翻訳、調査旅行などのプ

表7 デンマーク芸術基金2022年予算内訳

年	予算額*1
音楽プロジェクト支援委員会	131.8
舞台芸術プロジェクト支援委員会	116.5
視覚芸術プロジェクト支援委員会	47.7
視覚芸術助成委員会	36.1
文学助成委員会	31.6
文学プロジェクト支援委員会	20.8
子どもと若者を対象とした芸術家との出会いを促進するプロジェクト	20.6
音楽助成委員会	17.8
工芸・デザインプロジェクト支援委員会	13.3
工芸・デザイン助成委員会	13.2
建築分野助成・プロジェクト支援委員会	12.7
若い芸術家の才能開発のための領域横断プロジェクト	6.0
映画助成委員会	4.3
舞台芸術助成委員会	3.9
代議員会	2.1
合計	48,006

*1 単位は100万デンマーク・クローネ

出典：デンマーク芸術基金「芸術助成金の配分」⁷⁵⁾より筆者作成

プロジェクトに対して助成を行っている。委員会のメンバーは出版ディレクター1名と作家2名から構成されている⁸¹⁾。公共図書館を対象としたプロジェクトとしては、作家やイラストレーターが子どもたちを訪問して文化体験させるイベント等がある⁸²⁾。

5 考察・結論

本稿では、公共図書館サービスの核となる著作物や作品等の資料を安定的に供給するための文芸振興政策について、著作者・創作者の支援のための公共貸与権制度及びデンマーク芸術基金における文芸振興政策を見てきた。本章では文芸振興政策に関して公共図書館を視野に入れながら文化民主主義という観点から総括する。

5.1 文化政策と文化民主主義

文化省が設立された1961年に初代の文化大臣となったラウリツ・ユーリウス・ボムホルト(Laurits Julius Bomholt)は、文化大臣の就任前には社会省(Socialministerium)の大臣を務め、児童福祉、学校給食、公的保険等の社会福祉政策を推進した人物である。ボムホルトは文化大臣に就任後、福祉政策の射程を文化にまで広げた。文化省でボムホルトが進めた文化政策の基底には「文化民主主義(kulturelt demokrati)」という理念があった。文化民主主義とは、芸術を公的に支援しつつ、すべての市民が等しく文化にアクセスできるようにする考え方である⁸³⁾。この理念は現在まで受け継がれ、現時点でデンマーク芸術基金は組織のミッションを「芸術家の支援と芸術体験をすべての市民の日常生活の一部にすること」としている⁸⁴⁾。

文化大臣として文化福祉政策を展開したボムホルトの就任中には芸術や文化に関する重要な法律が制定され、その中に1964年の公共図書館法改正が含まれていた⁸⁵⁾。1964年の公共図書館法第1条は、図書館の目的を「図書やその他の適切な資料を無料で入手できるようにすることにより、知識、教育、文化を浸透させることにある」とし⁸⁶⁾、公共図書館が図書以外の資料を提供すること、資料提供を通じて文化・教育活動を振興することを明記したことで、それまでの資料提供サービスを中心とした図書館の目的を拡張していた⁸⁷⁾。同法第3条は全自治体が公立図書館を設置することを義務づけており、社会的背景や地理的な位置によらず、デンマークに居住する

すべての住民が文化的機会を平等に享受することが保障された⁸⁸⁾。

文化民主主義は図書館だけに限らず、博物館、劇場、音楽教育等、文化に関わるすべての政策に関わる基本理念である。その中で公共図書館は資料・作品を通じた知識・情報へのアクセス保障に関して、他の文化機関には代替され得ない固有の施設である。

5.2 デンマークの文芸振興政策と公共図書館

本稿では図書館料金制度とデンマーク芸術基金の文芸振興政策の2つの側面から、デンマークの文芸振興政策についてみてきた。

図書館料金制度は公共図書館での貸出対象となる著作物・作品に対して、金銭を払うことにより創作者を支援する仕組みである。ここで着目すべき点は、フィクション作品に対するポイントの傾斜配分であり、中でも詩にはノンフィクションの6倍のポイントが付与されている。デンマーク図書館協会は、知覚力、記憶力、推論力といった実用的スキルを高めると同時に、視野を広げ、感覚を研ぎ澄まし、新しい世界を開くことができる芸術体験として文学の重要性に言及している⁸⁹⁾。

一方、文芸振興政策に関して、公共図書館で最も重視されるのは、資料への平等なアクセスという理念である。この理念は文芸振興政策におけるプロジェクトの設計段階で組み込まれてきた。それは資料へのアクセスが困難な利用者に対するプロジェクトに具現化されている。

例えば2008年から開始されたブックスタート事業において「社会的目的のための政府基金(Satspuljemidler)」と宮殿・文化庁がプログラムを主導し、デンマーク語の修得に支援が必要な地域の家庭を対象者を絞り込み、リテラシー育成のための手厚いサポートを行った。具体的には、ブックスタート・メディアーター(bogstartsformidlerne)が社会的に弱い立場にある住民が居住する脆弱地域の家庭を訪問し、言語がもたらす刺激について保護者に説明すると共に、6ヶ月及び1歳児のそれぞれの年齢に合った図書の入ったパッケージを手渡すという細やかなサービスを行っていた。さらに1歳半になると図書館で、3歳になると保育園で図書パッケージを受け取るようにプロジェクトが計画されていた⁹⁰⁾。

その他の例として2.3で言及した社会的脆弱性の高い地域に焦点を当てた読書振興政策「社会的に脆

弱な住民のための健康向上に向けた読書コミュニティ」プロジェクトがある。このプロジェクトは、司書が住民グループと共に読書を行う「ガイド付き読書(Guidet Fælleslæsning)」⁹¹⁾を通して、住民の精神の健康維持の支援と向上を目的としている。同プロジェクトでは図書館が読書グループを組織化し、雇用センター、在宅ケアや地域保健センターの職員が精神的に脆弱で孤独な若者や高齢者等、脆弱な生活状況に陥っている住民市民を仲介した⁹²⁾。

近年では情報へのデジタルアクセスに焦点が当てられており、とりわけ子どもが図書館を通じてデジタル資料に対しアクセスできるようになるための政策が重点化されるようになった⁹³⁾。文化大臣エーネ・ハルスボー＝ヤアアンソン(Ane Halsboe-Jørgensen)は、2021年に文化省がデジタル教育の強化と民主的な対話の拡大、新しい方法で文学を活用するプロジェクトを開始するにあたり、オンライン情報もたらす社会の分断化を解消するために、公共図書館が重要な役割を果たすとした上で、公共図書館は民主的な対話の舞台であり、居住地域を問わず知識と情報への自由かつ平等なアクセスを確保するための機関であると述べており⁹⁴⁾、文化政策を担う関係者間で公共図書館の存在理念が共有されている。

5.3 総括

本稿では公共図書館においてサービスの基盤となる著作物や作品に関して、それらの創作に関わる政策として公共貸与権制度やデンマーク芸術基金の文芸振興政策の現状を示した。

1964年の図書館法改正以降、公共図書館はその活動領域を資料の提供を基盤として文化に関わる多様な活動に拡張することで地域社会における存在価値を高めていった。一方で公共図書館の目的が多様化した現在でも、読書材の安定的な供給を通じて、資料への平等なアクセスを保障するという原則により、公共図書館は全住民が著作物や作品にアクセスする最終的な責任機関として存在している。

本稿では図書館サービスを成り立たせている著作物・作品の創作を支えるデンマークの文芸振興政策の中核に文化民主主義の理念があることを示した。そうした理念や本稿で見てきた文芸振興のための政策と、公共図書館活動の間の実質的な関係性を明らかにし、デンマークの文芸振興政策における公共図

書館の位置付けを解明するためには更なる分析が必要である。

謝辞

本稿をまとめるにあたって、査読者の方から貴重なアドバイスをいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

注

- 1) Frank M. Gardner, *Public Library Legislation: A Comparative Study*. Paris, UNESCO, 1971, p. 78.
- 2) Jeppe Bjerregaard Jessen, Nina From Jensen, Jeppe Naur Jensen and Marie Starup eds., *Folkebiblioteker i Tal 2019*. Copenhagen, Slots- Og Kulturstyrelsen, 2019, p. 21. (https://slks.dk/fileadmin/user_upload/SLKS/Omraader/Kulturinstitutioner/Biblioteker/Biblioteksstatistik/Folkebiblioteker_i_tal_2019.pdf). [引用日: 2022-12-25]
- 3) 石田香「デンマークにおける文化政策の動向－文学に対する政府の支援体制を中心に」『文化経済学』5(1), 2006, 3, p. 95-103.
- 4) 石田は同論文において「フィクション・ノンフィクションを問わず、書籍等の形で公表された作品のことを」文学と規定した上で文学政策を論じている。*ibid.*, p.96.
- 5) 書籍委員会はデンマークの書籍市場の動向を把握するために2014年に設置された機関である。書籍と文学の専門家6名から構成され、書籍の生産、流通、消費プロセスを調査している。Kulturministeriet, Bogpanelet. (<https://kum.dk/ministeriet/organisation-og-institutioner/bestyrelser-raad-naevn-og-udvalg/bogpanelet>). [引用日: 2022-12-25]
- 6) August Holger Traugott Schwensen and Jeppe Naur Jensen eds., *Bogen og Litteraturens Vilkår 2021: Bogpanelets Årsrapport*. s.l., Bogpanelets, p.6-8. (https://kum.dk/fileadmin/_kum/5_Publikationer/2021/KUM_Bogpanelets_aarsrapport_NOV_05.pdf). [引用日: 2022-12-25] なお主題図書にはノンフィクション作品、特定のテーマについての図書、実用書、学術書などフィクション以外の図書が含まれる。
- 7) *ibid.*, p.8-9.
- 8) *ibid.*, p.9-10.
- 9) 日本銀行報告省令レート(2022年12月分)では、1デンマーク・クローネは約19.8円である。
- 10) August Holger Traugott Schwensen and Jeppe Naur Jensen eds., *op.cit.* 6), p.16-18.
- 11) *ibid.*, p.19.
- 12) Åsfrid Hegdal, *Reading Matters: Surveys and Campaigns: How to Keep and Recover Readers*. s.l., International Publishers Association, 2020, p.18. (<https://www>

- internationalpublishers.org/images/aa-content/ipa-reports/State_of_Publishing_Reports_2020/Reading-Matters.pdf). [引用日：2022-12-25]
- 13) August Holger Traugott Schwensen and Jeppe Naur Jensen eds., *op.cit.* 6), p.24.
- 14) 『図書と文学の状況 2021』では書籍の主たる入手先として15項目が示されているため、表1の各年の合計は100%とはならない。
- 15) *ibid.*, p.24.
- 16) Tænketanken Fremtidens Biblioteker eds., *En Stærk Læsekultur Hos Børn Og Unge: Oplæg Til En National Æsestrategi*. s.l., Danmarks Biblioteksforening, 2019, p.7. <<https://nationalstrategi.dk/wp-content/uploads/2019/07/En-st%C3%A6rk-1%C3%A6sekultur-hos-b%C3%B8rn-og-unge-Opl%C3%A6g-til-en-national-1%C3%A6sestrategi-juni-2019.pdf>>. [引用日：2022-12-25]
- 17) eReolen (<https://ereolen.dk/>) は、電子書籍、オーディオブック、およびポッドキャストを提供する公共図書館の全国ネットワークであり、居住する自治体の公共図書館に登録した ID でアクセス可能である。7歳から14歳の子ども向けに特化した電子書籍とオーディオブックのポータルサイト eReolen GO! (<https://ereolengo.dk/>) も存在する。 *ibid.*, p.11-13.
- 18) *ibid.*, p.16, 17.
- 19) Statistics Denmark, Culture and Leisure <<https://www.statbank.dk/10368>>. [引用日：2022-12-25]
- 20) August Holger Traugott Schwensen and Jeppe Naur Jensen eds., *op.cit.* 6), p.26.
- 21) 2020年には2019年に比べて印刷図書の貸出は約620万件減少し25%の減少となったが、2020年の電子書籍の貸出は2019年に比べ68万冊近く増加し、34.8%の増加となった。 *ibid.*, p.27, 28.
- 22) Statistics Denmark, *op.cit.* 19).
- 23) Mia Høj Mathiasen, “From Means to an End to Ends in Themselves: An Empirical Study of the Development of Public Library Programmes in Denmark Between 1960 and 2020,” *Nordic Journal of Library and Information Studies*. 1(2) 2020, p.37.
- 24) *ibid.*, p.41.
- 25) Jeppe Bjerregaard Jessen, Nina From Jensen, Jeppe Naur Jensen and Marie Starup eds., *op.cit.* 2), p.21.
- 26) *ibid.*, p.30, 31.
- 27) Center for Kunst og Biblioteker, Litteratur og Biblioteker and Slots- og Kulturstyrelsen, *Kortlægning af Læse-lystprojekter 2014-2019*. s.l., Slots- og Kulturstyrelsen, p.11-13. <https://slks.dk/fileadmin/user_upload/SLKS/Omraader/Kulturinstitutioner/Biblioteker/I_1_fokus/Laeselyst/Kortlaegning_af_laeselystprojekter.pdf>. [引用日：2022-12-25]
- 28) Slots- og Kulturstyrelsen, 100.000 børn får adgang til titusindvis af nye bøger. (<<https://slks.dk/100000-boern-faar-adgang-til-titusindvis-af-nye-boeger>>). [引用日：2022-12-25]
- 29) Slots- og Kulturstyrelsen, Biblioteker får midler til børns læsekultur, demokratiske samtaler og ny litteraturformidling. (<<https://slks.dk/biblioteker-faar-midler-til-boerns-laesekultur-demokratiske-samtaler-og-ny-litteraturformidling>>). [引用日：2022-12-25]
- 30) プロジェクトはいずれも競争的資金であり、各公共図書館はプロジェクトの計画を立てた上で申請し、採択された図書館は助成金を受け取り活動に取り組む。
- 31) Slots- og Kulturstyrelsen, Søg pulje til kunst og kultur i udsatte boligområder. (<<https://slks.dk/nyheder/2020/tilskud/soeg-pulje-til-kunst-og-kultur-i-udsatte-boligomraader/>>). [引用日：2022-12-25]
- 32) 宮殿・文化庁は文化省の下部組織であり、文化分野全般における政策の実施を担う。
- 33) Aarhus Bibliotekerne, Sunde Læsefællesskaber for Udsatte Borgere (SLUB). (<<https://www.aakb.dk/nyheder/kort-nyt/sunde-laesefaellesskaber-for-udsatte-borgere-slub>>). [引用日：2022-12-25]
- 34) 吉田右子, 坂田ヘントネン亜希「フィンランドにおける文芸振興政策と公共図書館:作家と図書館のための公的支援システムに焦点を当てて」『図書館界』72(3), 2020. 9, p. 108-124.
- 35) 吉田右子「ノルウェーにおける文芸振興政策と公共図書館:文芸作品調達制度に焦点を当てて」『図書館界』74(1), 2022. 5, p. 1-14.
- 36) 石田香, 前掲3), p. 95-103.
- 37) 南亮一「公共貸与権をめぐる国際動向」『カレントアウェアネス』286, 2005. 12, p. 18. (<<https://current.ndl.go.jp/ca1579>>). [引用日：2022-12-25]
- 38) Public Lending Right International, Established schemes. (<<https://plrinternational.com/established>>). [引用日：2022-12-25]
- 39) なおデンマーク自治領であるフェロー諸島については1966年に、同じく自治領であるグリーンランドについては1993年に公共貸与権が導入された。Public Lending Right International, Established schemes. (<<https://plrinternational.com/established>>). [引用日：2022-12-25]
- 40) 石田香, 前掲3), p. 100.
- 41) Slots- og Kulturstyrelsen, Fakta om bibliotekspenge for bøger. (<<https://slks.dk/tilskud/soeg-puljer/bibliotekspenge/fakta-og-tal>>). [引用日：2022-12-25]
- 42) Finansministeriet, Finansloven for 2022. (<<https://fm.dk/udgivelser/2022/februar/finansloven-for-2022/>>). [引用日：2022-12-25] 文化省予算の部は第21部(§21. Kulturministeriet) である。

- 43) Lov om biblioteksafgift. (<https://www.retsinformation.dk/eli/ta/1991/354>). [引用日: 2022-12-25] デンマークの公共貸与権制度については以下の文献で扱われている。石田香, 前掲3), p.100-101; 南亮一「デンマークの公貸権制度」『公貸権制度に関する調査・研究』公貸権委員会 編, 著作権情報センター, 2005, p. 9-13; 稲垣行子「電子書籍を中心とした公貸権制度の2005年以降の国際動向」『カレントアウェアネス』350, 2021. 12, p. 14. (http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11942244_po_ca_2011.pdf?contentNo=1&alternativeNo=). [引用日: 2022-12-25]
- 44) Bekendtgørelse om biblioteksafgift. (<https://www.retsinformation.dk/eli/ta/2017/1448>). [引用日: 2022-12-25] 同令は2022年4月19日に改正された。Bekendtgørelse om ændring af bekendtgørelse om biblioteksafgift. (<https://www.retsinformation.dk/eli/ta/2022/545>). [引用日: 2022-12-25] Bekendtgørelse om Ændring Af Bekendtgørelse Om Biblioteksafgift. (<https://www.retsinformation.dk/eli/ta/2022/545>). [引用日: 2022-12-25] 改正案では財務法で定める予算において, 印刷図書及び物理的な録音図書の貸出数とデジタル資料の貸出数の比率を考慮し, デジタル資料への配分予算を年ごとに増額することが明記された。
- 45) *ibid.*
- 46) 国民学校教育・学習センターは小学校と中学校の学校図書館に該当する。
- 47) Slots- og Kulturstyrelsen, Lovgrundlag og klagevejledning. (<https://slks.dk/tilskud/soeg-puljer/bibliotekspenge/lovgrundlag-og-klagevejledning>). [引用日: 2022-12-25] ; Slots- og Kulturstyrelsen, Biblioteksafgiftsnævnet. (<https://kum.dk/ministeriet/organisation-og-institutioner/bestyrerler-raad-naevn-og-udvalg/default-7a06d3f81d>). [引用日: 2022-12-25]
- 48) Slots- og Kulturstyrelsen, Beregning af bibliotekspenge for bøger. (<https://slks.dk/bibliotekspenge/beregning/>). [引用日: 2022-12-25]
- 49) 具体的な計算方法については, 以下のウェブサイトを参照のこと。 *ibid.*
- 50) *ibid.*
- 51) Slots- og Kulturstyrelsen, Kriterier for fordeling af rådighedsbeløbet for gramfonplader m.v. gældende fra 2017. (https://slks.dk.translate.google.com/fileadmin/user_upload/SLKS/Tilskud/Bibliotekspengene/Dokumenter/Kriterier_for_fordeling_af_bibliotekspenge_for_musik_og_lyd.pdf?_x_tr_sl=da&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=wapp). [引用日: 2022-12-25]
- 52) Slots- og Kulturstyrelsen, Musik og lyd. (<https://slks.dk/tilskud/soeg-puljer/bibliotekspenge/musik-og-lyd>). [引用日: 2022-12-25]
- 53) Slots- og Kulturstyrelsen, Sådan beregnes bibliotekspenge for musik og lyd. (<https://slks.dk/tilskud/soeg-puljer/bibliotekspenge/musik-og-lyd/saadan-beregnes-bibliotekspenge-for-musik-og-lyd>). [引用日: 2022-12-25]
- 54) ポイントは参加割合を乗じて算出される。参加割合が5%未満の場合, 配分されない。Slots- og Kulturstyrelsen, *op.cit.* 51).
- 55) Slots- og Kulturstyrelsen, *op.cit.* 51).
- 56) Slots- og Kulturstyrelsen, Billedkunst. (<https://slks.dk/tilskud/soeg-puljer/bibliotekspenge/billedkunst>). [引用日: 2022-12-25]
- 57) Slots- og Kulturstyrelsen, I dag udbetales mere end 185 millioner kroner i bibliotekspenge. (<https://slks.dk/i-dag-udbetales-mere-end-185-millioner-kroner-i-bibliotekspenge>). [引用日: 2022-12-25]
- 58) Slots- og Kulturstyrelsen, Modtagere af bibliotekspenge 2022. (https://slks.dk/fileadmin/user_upload/SLKS/Tilskud/Bibliotekspengene/Dokumenter/Modtagere_af_bibliotekspenge_2022.pdf). [引用日: 2022-12-25]
- 59) Slots- og Kulturstyrelsen, *op.cit.* 48).
- 60) Slots- og Kulturstyrelsen, *op.cit.* 52).
- 61) Slots- og Kulturstyrelsen, Bibliotekspenge for musik og lyd 2022. (https://slks.dk/fileadmin/user_upload/0_SLKS/Dokumenter/Tilskud_og_tilladelser/Biblioteksafgift/Bibliotekspenge_for_musik_og_lyd_2022_modtagere.pdf). [引用日: 2022-12-25]
- 62) Slots- og Kulturstyrelsen, *op.cit.* 56).
- 63) Trine Bille, Marianne Bertelsen and Cecilie Bryld Fjællegaard, *Danske Forfatteres og Oversætteres Økonomiske Levevilkår*. s.l., Copenhagen Business School, 2016, 182p. (https://slks.dk/fileadmin/user_upload/0_SLKS/Fotos/Bogpanel/Levevilkaar_net.pdf). [引用日: 2022-12-25]
- 64) *ibid.*, p.44.
- 65) *ibid.*, p.45.
- 66) *ibid.*, p.38.
- 67) 図書館料金の額は図書館におけるコレクションの数によって決定され, さらに図書館では古くなった資料は廃棄されていくため, キャリアの長さによって図書館料金が高くないことを指摘する著作者もいる。 *ibid.*, p. 40.
- 68) Johanne Gormsen Schmidt, *Statens Kunstfonds Betydning for Dansk Litteratur: Med Fokus på de Sidste 20 Års Litteraturproduktion og -Formidling*. s.l., Bogpanelet, 2020, p.61. (https://kum.dk/fileadmin/Bogpanel/Statens_Kunstfonds_betydning_for_dansk_litteratur.pdf). [引用日: 2022-12-25]
- 69) Trine Bille, Marianne Bertelsen and Cecilie Bryld Fjællegaard, *op.cit.* 63), p.108.
- 70) Johanne Gormsen Schmidt, *op.cit.* 68), p.13.
- 71) Kulturministeriet, Lov om Statens Kunstfonds virksomhed (Lov nr. 458 af 8/5/2013). (<https://www.retsinformation.dk/eli/ta/2013/458>). [引用日: 2022-12-25]

- 72) Statens Kunstfond, *Organisering og arbejdsgrundlag*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/organisering-og-arbejdsgrundlag>〉. [引用日：2022-12-25] なお代表者委員会にはアレズ図書館(Allerød Bibliotek)館長アネデ・ヴォルゲンヘーイン・ゴト(Annette Wolgenhagen Godt)が委員として選出されている。
- 73) Statens Kunstfond, *Udvalgene*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/udvalgene>〉. [引用日：2022-12-25] 終身助成金は、芸術を通してデンマークに特別な貢献をしたとみなされる芸術家に対して授与される助成金であり、2022年現在275名が給付対象となっている。Statens Kunstfond, *Hædersydelsel*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/haedersydelsel-og-praemieringer>〉. [引用日：2022-12-25]
- 74) Statens Kunstfond, *Fordeling af kunststøtten*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/fordeling-af-kunststoetten>〉. [引用日：2022-12-25]
- 75) *ibid.*
- 76) *ibid.*
- 77) Kulturministeriet, *Bekendtgørelse af Lov om Litteratur* (LBK nr 31 af 14/01/2014). 〈<https://www.retsinformation.dk/eli/ta/2014/31>〉. [引用日：2022-12-25]
- 78) Statens Kunstfond, *Udvalgene*, *op.cit.* 73).
- 79) Statens Kunstfond, *Legatudvalget for litteratur*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/moed-udvalgene/legatudvalg-litteratur>〉. [引用日：2022-12-25]
- 80) Statens Kunstfond, *Strategi*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/moed-udvalgene/legatudvalg-litteratur/strategi>〉. [引用日：2022-12-25]
- 81) Statens Kunstfond, *Projektstøtteudvalget for litteratur*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/moed-udvalgene/projekt-udvalg-litteratur>〉. [引用日：2022-12-25]
- 82) Statens Kunstfond, *Levende litteraturmøder for børn og unge*. 〈<https://www.kunst.dk/for-ansoegere/vejledninger/katalog-levende-litteraturmoeder-for-boern-og-unge>〉. [引用日：2022-12-25]
- 83) Jens Thorhauge, “Kulturpolitikens Udvikling i Danmark,” *Danmarks Biblioteker*. 25(5), 2021.10, p. 20, 22.
- 84) Statens Kunstfond, *Om os*. 〈<https://www.kunst.dk/om-os/vores-formaal>〉. [引用日：2022-12-25]
- 85) Michel Steen-Hansen, “Genbesøg Bomholt!: Hvil Kulturministeriet Blev Oprettet i Dag, Så...,” *Danmarks Biblioteker*. 25(5), 2021.10, p.19.
- 86) Frank M. Gardner, *op.cit.* 1), p.78.
- 87) Nan Dahlkild and Steen Bille Larsen eds., *Dansk Bibliotekshistorie 2: Biblioteker for Alle Tiden efter 1920*. Aarhus, Aarhus Universitetsforlag, 2021, p.140-141.
- 88) Michel Steen-Hansen, *op.cit.* 85), p.19.
- 89) Tænketaanken *Fremtidens Biblioteker*, *op.cit.* 16), p. 6.
- 90) Center for Kunst og Biblioteker, *op.cit.* 27), p.11.
- 91) ガイド付きグループ読書とは、8名から12名の参加者が読書ガイドと共に文学作品を読んで議論する相互対話的なプログラムである。Læseforeningen, *Guidet fælleslæsning*. 〈<https://www.laeseeforeningen.dk/guidet-faelleslaesning>〉. [引用日：2022-12-25]
- 92) Thorbjørn Zeuthen Tirsted, “Læs Sammen og Styrk Læselysten,” *Danmarks Biblioteker*, 26(1), 2022.1, p.24-25.
- 93) 一定数の子どもが公共図書館を訪問せずポータルサイト eReolen GO!のみを利用していることが報告されている。“Hvordan Får Vi Børn og Unge til at Læse Mere,” *Perspektiv*. 2022.8, p.15.
- 94) Slots- og Kulturstyrelsen, *Biblioteker får midler til digital dannelse, børns læsning og bekæmpelse af "Fake News"*. 〈<https://slks.dk/biblioteker-faar-midler-til-digital-dannelse-boerns-laesning-og-bekaempelse-af-fake-news>〉. [引用日：2022-12-25]